

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 環境センター
 所管課 一般廃棄物課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	循環型社会の形成	猪苗代湖のCOD(化学的酸素要求量)値	猪苗代湖水質モニタリング調査	猪苗代湖のpH上昇の原因究明及び水質汚濁の要因に対する効果的な水質保全対策を検討し、猪苗代湖の水環境悪化を未然に防止することに資する。	猪苗代湖におけるpH上昇等の水質変動メカニズムを把握するため、猪苗代湖及び流入・流出河川等のイオンバランス等を調査するとともに、酸性河川の源流域における水質変化を調査する。	19	21	B	pH上昇の明確な原因は解明されていないものの、猪苗代湖の水質汚濁の要因に対する効果的な水質保全対策の検討並びに水環境悪化を未然に防止するため、pH上昇の原因や水質浄化機能等について継続した調査が必要である。	このままCODが上がっていくと大変なことになるので、もっと精力的に研究すべきである。 水質改善のためのpH上昇の原因解明や環境保全のための研究成果の積み重ねがされていると判断するが、さらに積極的な対策のための方法技術との連携が不可欠である。

試験研究機関名 衛生研究所
 所管課 薬務課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	結核対策	VNTR分析法を取り入れた福島県内の結核菌の分子疫学的調査研究	結核菌のRFLP分析およびVNTR分析を実施し、菌の遺伝子情報のデータベースを充実させ、県内の結核の感染経路を解明すること(分子疫学的調査)により結核対策に資する。	県内医療機関の協力を得て結核菌株の提供を受け、RFLP分析およびVNTR分析を実施し、コンピューターシステムを用いて遺伝子解析を行う。	20	22	B	結核菌のVNTR菌を取り入れることで、より精度の高い感染経路についての情報を示すことができる。	デジタルデータの導入が画期的で意義がある。結核研究所への対応が早く、優れた領域であると言える。地方衛生研究所ネットワークによりデータ共有化ができてきていることは頼もしい。

試験研究機関名 環境医学研究所
 所管課 薬務課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	ライフステージや疾病に応じた保健予防対策の充実	難病対策	骨髄不全症候群の病態解明 - 新たな治療法に向けて -	骨髄不全症候群は、前白血球病状態として位置づけられており、その発症には何らかの免疫学的機序および発癌機序が関与していると思われるので検討する。	1 骨髄不全症候群の病態解明 2 骨髄不全症候群の新たな治療法の開発	20	22	B	本研究は骨髄不全症候群の病態解明により、急性白血球病への移行をその前段階で阻止するための新たな治療法の開発に向けて、是非、必要な研究と考えられる。	福島県に特化して重要というわけではないが、国際的な競争力のある研究となっているので、今後の発展が望まれる。県立医科大学との連携を促進していただきたい。

試験研究機関名 ハitekプラザ
 所管課 産業創出課

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	3-3- 地域資源を生かした産業の振興	ニーズ対応型研究開発事業	福島県オリジナル吟醸酒の高品質化	高香気性、中でもカブロン酸エチル系の香気を生成する酵母の開発を、これまでの酵母の突然変異処理によって取得する。	従来からの酵母および新たな酵母を、突然変異手法を用いて改変し、香気性、製酸性に優れた時代のニーズに応えうる酵母の造成を行う。	20	22	B	消費者嗜好の変化に応じた日本酒造りが求められる中、それに対応できる酵母の開発が求められている。また、地域からのニーズも高いことから、継続して実施すべきである。	福島県における農商工の一貫した連携開発として優位性はあると考える。酒造好適米に関する醸造法の実験研究については、米の生産については時間が掛かること、一様な品質の米を十分な量確保することが難しいことからパラツキへの対応が必要なことなどの要素を考慮して、関連する連携機関との協力関係によりスピードアップを図りながら進めることが不可欠と思われる。

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 農業総合センター
所管課(室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	総合的病害虫管理(IPM)による農作物安定生産技術の開発	病害虫リスクを持続的に低減できるよう、多様な防除方法を矛盾なく組み合わせた総合的病害虫管理体系を構築する。	農家自らが防除要否を判断できるように、病害虫の発生生態の解明や、個々の化学合成農薬の効果、各種耕種的防除技術を定量的に評価して、必要最小限の農薬で最大の効果が得られる防除技術の統合・体系化を図る。	18	22	A	各作物とも、現地試験のなかで、防除の要否を判断した上での農薬散布や、多様な手法を組み合わせることにによる総合的病害虫管理技術の実証が期待されるため。	・減農薬栽培が求められる中で、コストパフォーマンスの高い防除技術の開発が重要である。また、減農薬のためには不要な防除を行わないことが重要であるが、そのために病害虫被害が発生しては元も子もない。よって、防除が必要なのか否かを判定する技術の開発が必要になる。 ・研究は順調に進んでいると考えられる。やはり普及が鍵であると感じられ、コスト面を含めて、実際の現場の方々ともに進めていっていただきたい。
2	森林・農地などの公益的機能の維持・向上	生態系を維持・保全するための技術開発	水田地帯における水環境及び自然生態系保全技術の確立	水田、用排水路の生態系配慮施設の効果と課題を導き出すとともに、効率的で低コストな整備技術を開発する。	水田や用排水路において水棲生物の実態調査を行い、その環境に適した生態系配慮工法を開発する。	18	22	B	生態系を守りながら農業農村整備事業を実施するというニーズは以前に増して高まっている。さらに、開発中の工法等があり、現地において実証試験を行っているところから、今後も継続して取り組む必要がある。	・生態系配慮工法の開発と現場への適用は重要と考えるが、その効果の検証が必要と考える。また、農村景観にも配慮した整備も考えてほしい。 ・研究は順調に進んでいると考えられる。ただ、知的所有権の取得については、進歩性の確認と、将来の許諾の可能性について検討すべきと感じられた。
3	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	本県に適した高品質で優良な品種の開発と家畜の改良	花き新品種育成(リンドウ・カラー)	「うつくしま農業・農村振興プラン21」において、基幹・戦略作物として位置づけられているリンドウおよびカラーを対象とし、リンドウでは極早生および花色等に優れた品種、カラーでは花色等に優れた品種および軟腐病耐病性品種を育成する。	花き新品種育成に、リンドウは極早生等の新たな育種目標を設定して実施する。また、新たな対象品目としてカラーの新品種育成に取り組む。	18	22	B	県内花き産地の振興に欠かせない2品目であり、オリジナル品種の育成は重要な課題であることから、継続して取り組むべきである。	リンドウは仏花のイメージが強い。新品種を育成し、販路拡大を狙うなら、まずはイメージを払拭することが重要と思う。単色の花だけではなく、トルコキキョウのような色使いの花があれば良いと思う。また、購入した花卉はなるべく長持ちさせたいと思うのが消費者心理なので、もっと日持ちするようにはできないでしょうか。
4	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	バイオマス作物を中心とした景観維持・農地保全型輪作モデルの開発	バイオマス生産の拡大と農地保全・土地利用の高度化、景観の維持を図り、併せてバイオディーゼル燃料の利用体系の確立を図る。	資源循環サイクルに基づいて油糧作物栽培体系の構築とバイオディーゼル燃料の利用法の確立を図り、経営収支や景観形成効果等の多面的評価を行う。	18	22	B	残された課題の解決により有用な成果が得られる可能性が高いため、継続して実施すべきである。なお、課題の一部は競争的資金活用課題に移行し、残された課題について重点化して実施する。	畑地を中心に耕作放棄地が増大する中で、遊休農地の有効利用と地域内資源リサイクル方式の確立は緊急の課題となっているが、採算性の点で多くの問題を抱えている。輪作技術・バイオディーゼル活用手法とともに、絞りかずと畜産等との連携、観光資源等の経済的波及効果と支援方式等の仕組み作りも合わせて検討していくべきである
5	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	バイオテクノロジー等を活用した高度な技術開発	新品種育成効率化のための支援技術の開発	野菜・花きの生理・生態的な有用形質に關与するタンパク質等の代謝変動をバイオテクノロジーを利用した先端技術(プロテオミクス技術等)を利用して解析し、新品種育成を支援する技術を開発する。	生理・生態的形質の異なる個体について、形質発現に關与するタンパク質の発現レベルを比較・解析する手法を策定し、その形質の発現要因を解明するとともに、新品種の選抜、評価を支援する。	18	22	B	新品種育成のさらなる効率化を進めるために必要な研究であり、継続して実施すべきである。	
6	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	水田機能を活用した大規模土地利用型輪作の支援技術の確立	経営規模20～30haを想定した水稲、土地利用型野菜、畑作物の生産技術を開発し、現地実証する。	大区画ほ場で水稲超省力技術の開発および土地利用型野菜と大豆の輪作体系の組立と実証を行う。	18	22	C	大区画水田の省力管理技術の開発は成果が見込まれないため本年度で完了する。その他は、地域の担い手となる認定農業者や、集落営農、大規模経営体の品質・収量向上に寄与するため、継続して実施すべきである。	
7	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	地域資源の高度活用技術の開発	新機能カイコ・まゆ・シルク生産技術の創出	高品質、高物性、抗酸化能および新形質を示す絹糸を産生するカイコをハイブリッドにより育成し、その育産技術体系とカイコの機能利用法を確立するとともに、特異的機能を発現させるべく、生糸の練製技術および加工・製品化技術を体系的に開発する。	目的の機能カイコをハイブリッドにより育成し、その育産技術体系とカイコの機能を利用する新技術の開発。特異的機能を発現するまゆの生産および生糸の製造・加工・製品化技術の体系化。	18	22	C	新たな産業の創出と養蚕振興につながると思われるが、生産農家は減少しており活用先も限定的であることから課題を重点化してより成果の期待できる分野に特化して実施する。	

試験研究（中間）評価整理表

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
8	1 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2 消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	環境保全型農林水産業を確立するための技術開発	昆虫行動制御資材を用いた害虫感知新技術の開発	殺虫剤以外の資材を利用し、交信が乱の対象外害虫あるいは枝幹害虫に対する新たな防除技術を確立する。	交信が乱条件下でも当該害虫の発生を予測できる資材を開発する。また、多目的防災網等の物理的防除資材、電撃殺虫灯の利用や忌避剤等生理活性物質などの防除効果を検討し、天敵への影響を評価する。	18	22	A	本試験により得られた成果は、普及・参考成果や県の防除指針に順次反映されている。さらに、果樹のIPM防除体系の確立は重要な任務であるので次年度も優先して実施すべきである。	減農薬栽培技術や有機農業へ適用可能な病害虫防除技術の確立が求められているなか、着実に研究成果が上がっているようである。研究成果の現地実証が望まれる。 ・予算に限られる中で、研究は順調に進んでいると考えられる。
9	1 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2 消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	農産物の種々の生産拡大、安定生産のための技術開発	ナシオリジナル品種における高品質安定生産技術の確立	オリジナル新品種「涼豊」について高品質安定生産技術を確立し、ひいては県産ニホンナシのブランドを確立する	樹形試験を行い、「涼豊」に適した生産方式を確立し、同時に生育調査、果実成熟調査を実施して果実品質向上技術を確立する。	18	22	C	樹形改良は、ナシのオリジナル新品種「涼豊」の生産性向上に有効な栽培法と考えられることから、試験研究期間を延長し継続実施すべきである。	
10	1 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2 消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	リンゴわい性台木を利用した管理しやすい高生産性樹形の開発	リンゴわい性台木及びマルバカイドウ台木を利用した新樹形低樹高栽培による作業時間短縮、作業難度低減を含めた作業効率の向上及び高品質果実生産を目的とする。	わい性台木及びマルバカイドウ台木において開心形をはじめとする低樹高栽培のための新樹形を取り入れ、作業性、生産性を検討するとともに作業時間を調査する。また、不織布ポット利用による樹勢の調節、花芽着生の促進技術の開発を図る。	18	22	B	低樹高新樹形の開発は、今後の省力で高品質なリンゴ生産を支える重要課題であるので、本試験を平成23年度まで継続して実施すべきである。	
11	1 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2 消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	地域の農林水産業を支援する高度解析・予測技術の開発	DVR（発育速度）モデルを応用した生育予測法の確立	リンゴ及びブドウ主要品種の収穫期予測手法を確立する。	年ごとの果樹の生育経過や特性を明らかにし、各生育ステージを指標化して簡便に把握する方法を確立する。また、このデータを基に、生育モデルを用いて気象要因との関連を統計的に解析し、精度の高い生育予測法を確立する。	18	22	B	果樹の生育予測に関する研究は、現地から要望が多い課題である。また、近年の気候変動に即応可能な体制づくりが叫ばれており、緊急性の高い課題であることから、継続して実施すべきである。	
12	1 農業生産力の発揮と特色ある農業の推進 2 消費者の視点を重視した県産農産物の安定供給	付加価値の高い畜産物の生産・加工技術の開発	機能性の高い生乳生産技術の開発	安全・安心かつ人体に有用な栄養素を多く含む生乳を提供するため、健康な乳牛による高品質かつ機能性の高い生乳生産技術を確立する。	脂溶性ビタミンの生乳移行について調査するとともに、乳牛の分娩前乳房炎治療について検討する。	18	22	B	給与ビタミンが乳中へ移行することは確認できたが、その機能性を十分に発揮させるためには乳房炎の予防が必要であり、現在、その発生予測が可能となった段階である。今後は、予測に基づく早期治療方法を確立し、安全・安心でさらに機能性の高い生乳生産について検討する必要がある。	・飼料中に添加したVA、VEが生乳中に移行する結果を得ているが、本技術の実用化のためには、それらビタミンを多く含む飼料の作出が重要である。また、ビタミンを多く含む生乳の機能性、優位性を示す必要がある。また、乳房炎の早期発見・早期治療法の確立が望まれる。 ・血中ビタミンA濃度が上昇しないにもかかわらず、乳への移行が認められる理由がわからなかった。経時的な観察により、どれくらいまで乳の脂溶性ビタミン含量が高まるのか、それをヒトが摂取する場合の有用性についてご検討いただきたい。
13	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	畜産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	生産コストと付加価値を考慮した地鶏の生産流通方式の確立	1 地鶏の生産性を改善した飼養方法を確立する。 2 地鶏肉の肉質成分分析成績等を活用し、地鶏肉の品質の育一性をもたせる。	1 地鶏の生産・流通に係る実態調査 2 付加価値を考慮した地鶏肉の生産・流通方式の検討 3 地鶏肉の肉質評価法の確立	18	22	A	生産コストの低減や肉質向上に係る、生産農家や関係機関からのニーズが依然として高いことから、今後も継続してニーズに対応した試験研究に取組む必要がある。	耕畜連携が進められる中、自給飼料による付加価値化、差別化戦略が取り組まれている。自給飼料による肉質改善等の計測とともに、生産方法における耕畜連携・循環システム（エサと土作りの循環システム）の視点から消費者にアピールしており、流通形態もあわせ生乳生産システムの「ものたり化」の検討が必要である

試験研究（中間）評価整理表

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
14	農業生産力の発揮と特色ある農業の推進	バイオテクノロジー等を活用した高度な技術開発	DNA解析を活用した家畜の育種改良技術の開発	和牛および鶏の経済形質や遺伝病等不良形質を支配する遺伝子型情報により、県産和牛および県産銘柄鶏の能力向上を図る。 また、県産銘柄鶏の品種識別技術により、鶏肉の偽装防止を図る。	和牛および鶏の遺伝子型特定用家系を作出する。各家系の個体毎の遺伝子型を判定し、連鎖解析により有用な遺伝子型情報を特定する。有用であった遺伝子型情報を解析家系以外の家系を用いて、その効果を検証する。	18	22	B	現在、和牛および鶏両家系で遺伝子型判定を進めている。和牛では産肉性、鶏では産肉・産卵性、外貌・不良形質を対象とした遺伝子型特定が可能であるが、有用形質の遺伝子型特定およびその効果判定には複数年の研究期間が必要であり、今後とも継続して実施されるべきである。	
15	持続性の高い生産方式の導入	環境保全型農業を確立するための技術開発	環境負荷・悪臭低減技術の確立	消化率向上や給与飼料成分を再検討し、窒素やリン及び重金属等環境負荷物質の排せつ量を減少させる。また、堆肥化施設、養豚施設及び堆肥施用時等の環境負荷を低減する技術を確立する。	ミネラル給与や地域有機性資源の利用による環境負荷物質排せつ量及び畜舎等からの悪臭発生を低減させる技術を検討する。また、堆肥化施設での臭気捕集技術や堆肥施用時等の環境負荷低減技術を検討する。	18	22	C	豚糞中の銅・亜鉛低減技術の確立については、その効果が判然としないことから中止とすべき。しかし、畜産経営内で課題とされている家畜尿を中心とした液肥の散布時における悪臭低減技術の開発については、今後の液肥利用の促進が期待できるため継続した試験の実施が必要。	
16	持続性の高い生産方式の導入	環境保全型農業を確立するための技術開発	家畜排せつ物の堆肥化・処理利用技術の確立	良質堆肥生産のための堆肥化施設、発酵促進技術及び調製技術を確立する。また、耕種農家が求める堆肥を供給するための流通技術及び施用技術等を確立する。	堆肥の発酵促進技術や積極的な耕種部門への流通利用技術を検討するとともに、野菜等への堆肥施用を検討し、家畜排せつ物の堆肥化及び利用技術を構築する。	18	22	C	家畜ふん由来堆肥の園芸での利用を推進するためには、良質堆肥の省力的生産技術の確立が必要である。このため継続した試験の実施が必要である。但し、堆肥の流通技術については、既存手法の活用が有効であると考え、本研究では中止すべきである。	

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 林業研究センター
 所管課(室) 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	圧縮処理等を活用した県産材の性能向上技術の開発	木材の寸法安定性、難燃性等を付与する高付加価値化技術は数多く開発されているが、設備投資を含めたコストの問題が実用化への障壁となっている。したがって、県産材の用途拡大に向け、簡便な処理で性能向上を図るための高付加価値化技術を開発する。	常温下での圧縮処理をベースとした、耐候性、寸法安定性に優れた処理技術を開発し、開発した製品の性能評価を実施する。 なお、技術開発にあたっては、既存施設の活用を視野に入れるとともに、材料については間伐材等低位利用材の活用を考慮する。	18	22	A	従来の塗装処理とは異なるスギ外壁材製品、表面圧密した床暖房用フローリング製品の開発の見通しが立ちつつあり、性能評価を中心に、継続実施する必要がある。	間伐材を利用できるので山林環境の整備にも人間の健康にもとても良い健康だと思う。しかし、一部の工務店のみがわかるのではなく、広く県民に周知できるように県の施設を利用したPRも必要ではないかと思う。
2	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	県土の多目的機能発現のための森林環境管理技術の開発	伐採適齢人工林の混交林化	伐採適齢期を迎えたスギ人工林の伐採後に、再造林木の植栽をしないので、かつ、森林荒廃を起こさない低コストな森林の更新技術を開発し水土保持に適した針広混交林に誘導する手法を確立する。	人工林を伐採して収穫する際に、本来ならば支障木として切り捨てて放置される曲木、劣勢木等を残置し、水土保持機能を保ちつつ、周辺の林や埋没種子からの実生により、混交林化を図る手法を開発する。	18	25	B	データの蓄積途上であり、施業方法の検討と併せ、継続した調査が必要である。	
3	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	県産木材を用いた大断面構造柱の開発	建築基準法の改正により、大規模建築物への木材の利用範囲が広がったことから、美観や環境適合性に優れた大断面構造柱を開発することにより、県産木材の需要拡大を図る。	県産材を主要部材とした、性能指標が明確な大断面構造柱を開発するため、構成条件や接着条件の検討、ならびに試作製品の強度性能評価等を行う。	18	22	C	建築設計に関する状況変化により、新たな仕様の構造材については、個々に大臣認定等の公的認証が必須となり、活用指針等での利用啓発を図ることとした当初の目標達成は困難な状況にある。(期間短縮)	
4	21世紀の豊かな森林、活力ある林業・木材産業づくり	中山間地域の産業振興を支援するための総合的な技術開発	中山間地域振興を目的としたきこ栽培技術の開発	地域の社会的、環境的条件に適合した、複数きのこを組み合わせた栽培形態を確立し、定住の促進等による中山間地域の振興を図る。	ブナ代替原木による原木ナメコ栽培や、季節に応じたきのこの組み合わせによる栽培を検討し、低い投資額と労働力で高齢者等でも容易に取り組める栽培技術を確立する	18	22	B	研究成果は、中山間地域の振興に寄与するものであり、研究成果は目的を概ね達成している。(終了)	

試験研究（中間）評価整理表

試験研究機関名 水産試験場
 所管課 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産業の振興	地域資源の高度活用技術の開発	県産主要魚種の優位性説明	県産主要魚種の脂肪の乗り具合等の成分を魚種別、季節別に調査し、また他地域の魚と比較する等で魚価向上につながる優位性を明らかにする。	本県水揚げ主要魚種の脂肪量などの一般成分を把握し、成分の季節変化や比較から、県産主要魚種の旬を確認する。	18	22	A	粗脂肪の分析結果ではアオメエリには季節変動があり、また他地域産よりも高いことが確認できた。 ヒラメ等の他魚種については、粗脂肪に加え、うま味成分等の他成分にも着目して季節変動等の調査を進めていく。	・今回得られた研究成果をどのように販売戦略に生かしていくかが重要。 ・研究は順調に進んでいると考えられる。脂肪酸組成や脂質クラスのデータを、次の機会に伺いたい。
2	豊かで魅力ある水産業の振興	地域の農林水産業を支援する高度解析・予報技術の開発	オキアミ漁況予測手法の開発	オキアミの漁場形成要因を解明して漁況予測手法を開発する。得られた漁況情報を提供することにより、船びき網漁業者の効率的な操業を促進する。	また、本県産と競合産地産品の旬における成分及び餌料生物比較から、県産主要魚種の優位性を把握する。	18	22	B	海況変動により漁況を予測することが可能と考えられた。 今後、海況変動の解析を進め、指標についての検討を行うことで、漁況予測の精度向上と技術的安定が期待される。	

試験研究機関名 内水面水産試験場
 所管課 農業振興課研究開発室

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	研究期間		評価結果	理由	外部評価アドバイザー意見
	施策目標	研究課題分類				始期	終期			
1	豊かで魅力ある水産業の振興	水産資源の持続的利用技術の開発	アユ増殖技術の開発	一部漁協で釣果実績があり、内水面漁連が種苗生産を望んでいるダム湖系種苗等を対象に、中間育成、釣果等から種苗特性を評価する。また、早期放流の可能な単価の安い小型種苗の放流効果を把握する。	・ダム湖系種苗について釣獲評価を行う。 ・飼育環境の違いによる釣獲評価を行う。 ・小型種苗の放流効果を把握する。	18	22	C	漁協等業界からのニーズがより高い「本県産アユの主要な系統の種苗特性評価」にシフトすることにより、漁協の増殖事業への展開が期待されるため。	天然アユの遡上調査により資源量把握が可能となった。今後の発展的課題として、流域間の資源分布と魚道改善方策、河川流域の水質と資源分布、上流の産卵場所の確保など、資源管理技術と改善方策に関する基礎的研究への発展課題が展望できる。
2	豊かで魅力ある水産業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	モツゴ養殖技術の確立	モツゴの成熟調整技術および集中産卵技術を開発し、コイ養殖池で混養することにより、生産性の向上と経営の安定を図る。	親魚の催熟調整による水仔の大量生産技術開発手法の比較試験及びコイ養殖池での実証試験	18	22	B	県内養殖業は依然として厳しい経営状況にあり、経営の多角化を求める業者の状況を踏まえると、来年度も継続実施されるべきである。なお、養殖現場への成果普及のためには、より簡便な方法を提案する必要がある。	
3	豊かで魅力ある水産業の振興	農林水産物の高品質化と一層の省力・低コスト生産のための技術開発	イトウ親魚育成技術の開発	イトウは採卵時のふ化率が低く、安定した種苗生産が困難であるため、親魚の養成方法を改良することでふ化率の向上を図る。	・時期ごとに飼育水温を変えて親魚育成を行う。・3～5月に採精し、精子の運動性を調査する。・雌の成熟時期に合わせて採精し、ふ化率(受精率・発眼率・浮上率)を調査する。	18	22	B	親魚の養成手法の改良により、採卵は可能となったが、さらにふ化率の向上について、継続した検討が必要である。	